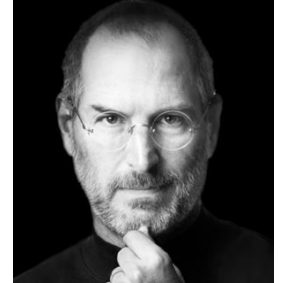


育世子屋NEWS

2022. 2. 1 (再)

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

偉大な経営者スティーブ・ジョブズ ～彼の意外な我が子への「教育方針」とは～



(1955-2011)

みなさんはスティーブ・ジョブズという人物をご存じでしょうか？
恐らくこの顔とこの名前を知らない人はいないのではないのでしょうか？

彼は「iPhone」「iPod」「iPad」などなど、大ヒット商品を立て続けに世に送り出してきた『Apple』の創業者。21世紀最大の起業家、とも言われるほどの経営者です。

今回はこのスティーブ・ジョブズの意外すぎる（でも塾長はうなずいている）我が子への教育方針や、彼の残した名言についてまとめてみたいと思います。

「起業家」としてのスティーブ・ジョブズ

1976年、スティーブ・ジョブズと親友スティーブ・ウォズニアックの二人は会社を作りました。それが後に世界で唯一時価総額1兆ドル企業となる「Apple」です。

創業後は順調に事業を拡大していきます。しかし1984年Macintoshの発売を開始した頃に需要予測を大幅に見誤り、初めての赤字を計上することとなります。その前年にCEOに就任したジョン・スカリー（元ペプシコーラ社長）は、経営を混乱させているのはジョブズであると考え、彼をAppleから追放したのです。

ジョブズはその後アップル社の株を全て売却し、オペレーティングシステム（OS）の開発をする会社NeXT社やアニメーションスタジオの設立をするなどの活動を進めていきました。

1996年、自社でのOS開発が暗礁に乗り上げていたアップル社がジョブズのNeXT社を買収することで合意。これを期にジョブズはアップルに非常勤顧問として復帰、買収代金として150万株の株式を譲渡されたことにより筆頭株主となり、2000年にはCEOに返り咲くのです。

2001年にはNeXTとAppleの技術を融合させた「Mac OS X」を発売、同年に「iTunes」と「iPod」によって音楽事業に参入、2007年には「iPhone」を発表し、後にスマートフォン事業は総売上高の5割を占めるまでに成長し、今のAppleの地位を築いたのです。

「子を持つ親」としてのスティーブ・ジョブズ

2010年に発売された「iPad」は爆発的な人気で、生産が追いつかなくなるほどでした。同年の年末、ある新聞記者はジョブズにこのような質問をしました。

「お宅のお子さんたちは、iPadをさぞ気に入っているのでしょうか。」

しかし、帰ってきた答えに記者は驚きを隠しきれませんでした。

「いや、うちの子供たちはまだ使ったことがないんだよ。家では子供たちがテクノロジーを使う時間を制限しているからね」

インターネットの可能性を語り、デジタル機器を世に送り出すことでこれほど会社を大きくしてきたジョブズが、我が子にはその機器を触らせていない！？

そこにはどのような考えがあるのでしょうか？

専門家はみな、「危険」だとわかっている

そう、答えは簡単です。

ジョブズはそれらがどれだけ「危険」なのかを分かっていたのです。

ジョブズに限らずテクノロジーに携わる会社の創業者や経営者は、子供がスマホやタブレットなどのスクリーンに向かう時間を厳しく制限し、学校がある平日は全てのデバイスの使用を禁止している人が多かったのです。（週末だけはわずかな時間を与えるというケースが多いようです）

例えば無線操縦飛行機メーカー「3Dロボティックス」の最高経営責任者クリス・アンダーソンは、自宅にある全てのデバイスに対し、制限時間を設け、全て親が管理するようにしています。

彼は6歳から17歳までの5人の子供についてこう語ります。

「子供たちは私と妻のことをテクノロジーについて過剰な心配をしていると非難します。こんな厳しい規則のある家なんて、友だちのところには一軒もないと。」

でもこうするのは、私達がテクノロジーの危険をこの目で見てきたし、私自身が経験しているからなんです。子供たちには、そういうことが起って欲しくないですから。」

ジョブズの話に戻りますが、彼には4人の子どもがいることが知られており、2人目の妻ローリンとは3人の男女を育てています。では、彼の子どもたちは、父親が作った機器を使う代わりに、何をしていたのでしょうか？

ジョブズの自宅を何度も訪れていた知人はこう語っていたそうです。

「スティーブは毎晩、台所の大きな、長いテーブルで食事をしながら、必ず本や昔のことやいろんなことについて子どもたちと話し合うようにしていた。誰も、iPad やパソコンを持ち出すことはなかった。子どもたちが機器類に依存しているような感じは、まったくなかったね。」

10 歳までは特に「中毒」になりやすい

タブレットやスマホで動画を見せておくとおとなしくしてくれるので、小さな子供にも使わせている方も多いと思いますが、10 歳までは特に「中毒」になりやすいというデータがあるので、親は徹底的に管理をする必要があります。

テクノロジー会社の「アウトキャスト・エージェンシー」の最高経営責任者であるアレックス・コンスタンティノープル氏もそのデータをもとに、

『10 歳までは iPad やスマホなどのデバイスを、平日は全く使用させない。週末は親の管理のもと限られた時間だけは許可する。10 歳から 14 歳の子供に対しては平日も使用を許可するが、宿題（学習）のためだけ』

というルールを設定したそうです。そして何よりも注意しなければならない点が

『寝室にスマホやタブレットを絶対持ち込ませないこと』です。

マサチューセッツで行われた調査では、57%の子供がベッドにスマホなどを持ち込んでおり、それらのデバイスを持ちこまない子供たちに比べて 20~40 分ほど睡眠が短くなりました。

たったそれだけかと思われるかもしれませんが、眠りにつくのが遅くなるだけではなく、睡眠が浅くなることにも繋がるので、その被害はかなり大きいものとなります。

ちなみに、学習したことは寝ている間に定着します。睡眠の質が悪かったり、睡眠時間が十分でなければ、せっかく学習しても効果は少ないのです。

しかも寝る前にタブレットなどを使用すると、学習内容よりもタブレットの内容が頭に残るため、学習したことが定着しなくなるのです。

既にお子さんがスマホやタブレットを使用しているご家庭は、再度使い方のルールを話し合ってみてくださいね。

ジョブズが考える「成功する要素」とは

パソコンにスマホにタブレット・・・まさに今の時代を作ったと言っても過言ではないジョブズですが、それだけデバイスを広めておきながら、我が子には使用させなかったという事実には驚かされました。

逆に言えば、我が子には使わせたくないほど危険な物だけど、売れるなら作って売る！というあたり、まさに21世紀最大の起業家ですね。

そんな彼は生前、多くの名言を残しています。それらをたくさん紹介したいところなのですが、今回は一つだけ紹介したいと思います。

「成功する起業家と失敗する起業家を分ける要素の半分は、

純粹に忍耐力であると確信している。」

ジョブズに限らず他の経営者、世に名を残した人（以前、育脳寺子屋 NEWS でも取り上げたエジソンやイチローなど）も同じようなことを言っていました。

結局のところ、人の元々の能力にはそこまで差がないのだと思います。そんな中、何が明暗を分けるのかと言えば、どれほど我慢して一つのことに取り組み続けられるか、つまり『**忍耐力**』に関係するところが大きいのです。

たいていの人は「より簡単により結果の出そうな方法」「楽に思える方法」を求めて、今の方法を途中で諦めます。でもそんな都合のよい別の方法なんて存在しないので、また方法を変えるのです。だから結局、いつまでたってもよい結果にはたどり着けません。

ただし、何も考えずただ作業として続けるのであれば、そこに忍耐力があってもよい結果に結びつくことはありません。必死に考え、行動に移し、改善し、また必死に考え・・・というサイクル（よくPDCAと言われます）を続ければ、「成功」といえるような結果に近づきます。

皆さんには勉強を通してPDCAができる力を身につけて欲しいと思います。

このNEWSは2019年8月号として配布したものです。

一度お読みになられた方ももう一度お読み頂き、子どもたちの心身ともに健全な成長を共に見守りたいと思います。